

ブラジル中銀、ゴールドファイン総裁退任へ

～後任には元企画相で銀行出身のエコノミスト、中銀のスタンスは不変の模様～

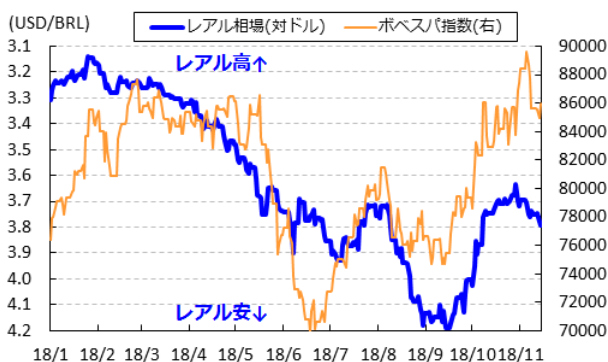
第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522)

(要旨)

- ブラジルでは先月の大統領選でボウソナロ氏が勝利した。同氏は過激な発言が多く、政権運営に不安を覚える声は少なくないが、左派政権下での財政悪化や汚職噴出による政治不信を受けて当選した。他方、議会基盤が乏しいなかで議会運営は困難が待ち受ける。経済政策への期待、国民人気を意識した次期政権人事は金融市場からの期待を集める一方、リアル相場への発言を巡って中銀総裁人事に注目が集まった。こうしたなか、15日に次期政権はゴールドファイン現総裁の後任に大手銀行重役のネト氏を指名した。双方ともに銀行のエコノミストを経験するなど出自は似ており、中銀のスタンスに変更が生じる可能性は低い。ただし、次期政権はリアル安を志向する可能性が高く、次期総裁の下での舵取りに注目が集まることになろう。

ブラジルでは、先月に行われた大統領選挙において極右政党であるP S L（社会自由党）から出馬したジャイル・ボウソナロ（Jair Bolsonaro）氏が勝利し、来年1月の就任式を経て次期大統領になることが決定した。ボウソナロ氏自身を巡っては、軍出身で過去に軍政を礼賛する発言を行ったほか、社会的弱者などに対する暴言及び差別発言などで物議を醸すことが多く、海外メディアなどは『ブラジルのトランプ』と揶揄する動きもみられ、政権運営に対する不安を覚える声は少なくない。ただし、長年に亘る左派政権下でのバラ撒き政策に伴い同国の財政状況は急速に悪化している上、与野党問わず多数の政治家による汚職が明らかになるなど国民の政治不信が極まるなか、四半世紀に及ぶ政治家キャリアを有する一方で汚職に縁遠い同氏が支持を集める事態となった。なお、大統領選と同時に開催された総選挙では、P S Lは議席数を大幅に拡大させる躍進を果たしたものの、議会下院（代議院：総議席数 513）での議席数は 52、上院（元老院：総議席数 81）での議席数は 4 に過ぎず、議会運営は困難が避けられそうにない。こうしたなか、大統領選後のボウソナロ氏は過激な発言を抑える一方、国民からの期待を集めた経済の建て直しや汚職対策に注力すべく次期政権の陣容を固める動きをみせており、上述の議会運営を巡る不安はあるものの国際金融市場も期待を寄せている。こうした期待を反映するように、年明け以降は米 F R B（連邦準備制度理事会）による金融政策正常化の動きに加え、夏場以降の『トルコ・ショック』に伴う国際金融市場の動揺に伴い下落基調を強めた通貨リアル相場は反転しているほか、主要株価指数（ボベスパ指数）も今月初めに過去最高値を更新した。経済政策

図 レアル相場(対ドル)と主要株価指数の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

面では、財務相に米シカゴ大出身で銀行出身のエコノミストであるパウロ・ゲデス (Paulo Guedes) 氏が就任する予定であり、小さい政府を志向するほか、財政規律を重視する姿勢が金融市場から好感されている。他方、国民からの人気を高めるべく、法務相には国営石油公社 (ペトロブラス) を舞台とする政界汚職事件に関する公判を指揮し、ルラ元大統領の収監に追い込むなど多くの国民から『英雄視』されるセルジオ・モロ (Sérgio Moro) 氏が就任するほか、科学技術相に元軍人で同国初の宇宙飛行士となったマルコス・ポンテス (Marcos Pontes) 氏を就けるなどの動きもみられる。こうした動きを背景に、ボウソナロ次期政権は国内外からの関心を高める戦略を採る一方、同氏が大統領選後のインタビューにおいて、中銀に通貨リアル相場の目標を設定させる旨の発言を行ったことに対して懸念がくすぶっていた。事実、大統領選 (決選投票) にかけて上昇基調を強めたリアル相場は選挙直後をピークに頭打ちしており、現状は期待と不安が交錯する展開が続いていると捉えられる。中銀現総裁のイラン・ゴールドファイン (Ilan Goldfajn) 氏は2016年の就任以降、穏当な政策運営により国際金融市場からの信頼を高めてきたが、政権交代を期に退任するとの観測が出るなど、その去就に注目が集まってきた。こうしたなか、次期政権は15日に次期中銀総裁に米UCLA出身の大手民間銀行重役でトレーディング部門を率いるロベルト・カンポス・ネット (Roberto Campos Neto) 氏を指名する方針を発表した。なお、同氏は軍政時代に経済政策を司る企画相を務めた経験がある上、その後も金融界に長く身を置くなど同国では著名エコノミストのひとりとして知られ、ゴールドファイン氏自身も大手銀行のエコノミストなどを歴任したことを勘案すれば、総裁交代に伴い中銀のスタンスが変わる可能性は極めて低い。上述したボウソナロ氏によるリアル相場への発言を巡っては、その後に次期政権幹部から直接目標の代わりに相場の予測可能性を高める意向が示されるなど、依然としてきな臭い雰囲気は残る。次期政権の下、次期中銀総裁に就任するネット氏が如何なる舵取りを行うかに注目が集まることになるだろう。

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

